

公益財団法人アジア・アフリカ文化財団

平成 24 年度 事業計画

(平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月)

はじめに

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により当法人の事業は多大な影響を受けた。とりわけアジア・アフリカ語学院専門課程の日本語学科では入学辞退者が多数発生し、厳しい運営を強いられた。震災から 1 年が経過し日本留学の全体状況は回復基調にある。このような状況を踏まえた上で、本年度は将来の活動も展望しつつ、教育プログラムの充実・運営の効率化などに努めたい。

他方、本年度は従来の事業活動に加え、アジア・アフリカ図書館と三鷹市立図書館との協働・連携による新たな事業（下記(1)の d）に向けた具体的な準備に着手する。なお、本年度この事業に関連し法人社屋の建て替え工事を行う（平成 24 年 9 月着工、平成 25 年秋竣工予定）。

(1) 社会教育（アジア・アフリカ図書館）事業

- a) 蔵書収集及び閲覧・貸出し：デジタルデータによる蔵書登録を継続するとともに、国立情報学研究所によるデータベース（Nacsis Webcat）に対する本館所蔵図書の登録を進め学術機関間の相互貸借に貢献する。
- b) 文化講座の開催：一般の人々を対象とした「アジア・アフリカを知る集い」及び三鷹ネットワーク大学と連携した文化講座を開催する。
- c) 調査・翻訳の受託：レファレンスを含めた調査・翻訳の依頼に対応する。
- d) 三鷹市立図書館との協働事業：三鷹市立図書館の分館への施設の貸与及び運営協力に向けた三鷹市との協議ならびに具体的な準備を行う。

(2) 学校教育（アジア・アフリカ語学院）事業

- a) 言語・文化・社会に関する教育
専門課程教育：日本語学科においては、外国人学生を対象とした日本語教育並びに日本の高等教育機関への進学指導や就職指導を行う。定員 100 名。全日制 1 年課程（4 月入学）、全日制 1.5 年課程（10 月入学）を実施する。
アジア系語学科においては、入学者の減少傾向に対応すべく募集に努力する。定員 100 名。全日制 1 年課程（4 月入学）、全日制 2 年課程（4 月入学）を実施する。
専修学校の付帯教育及び別科の教育：社会人教育として、一般社会人を対象としたアジア・アフリカ諸言語の講座をグループ及びプライベート形式で実施する。また、法人（企業・官公庁など）からの依頼に応じた語学研修を企画・実施する。また、在日外国人児童生徒に対する教育支援として、「第 5 回夏季外国人子弟学習支援クラス」を実施する。

- b) 学生寄宿舍の運営：外国人学生寄宿舍『有朋館』（23人収容）『青雲公寓』（8人収容）の運営と学校周辺の貸し物件を借り受けて留学生に提供する。

（３）国際交流事業

- a) 異文化体験の提供：アジア・アフリカ世界の教育関係者及び日本留学希望者を日本に招くプログラムを企画・実施する。
- b) 人材紹介：アジア・アフリカ世界における人材募集の情報を収集し、広報するとともに人材のマッチアップに努める。

（４）国際協力事業

- a) 外国人技能実習生の受入れ：入管法及び関係法令に基づく「技能実習制度」に則った技能実習生の受入れを継続する。
- b) 日本語教育普及：「日本語教員交流プログラム」を結んでいる海外の教育機関との交流を中心に、日本語教師の海外派遣を行う。

以上